

# AGAROOT ADMISSION

総合型選抜・推薦入試対策

Lv.1

## 導入オリエンテーション

---

— 総合型選抜入試の「地図」を手に入れる —

---

### このオリエンテーションで身につくこと

- 総合型選抜入試の全体像と、一般入試との根本的な違いを理解する
- 大学が受験生に「本当に求めているもの」を5つの視点で把握する
- 入試形式を4タイプに分類し、自分の志望校がどのタイプか判断できる
- 合格に必要な「6つの能力」を知り、自分の現在地を確認する
- AGAROOT ADMISSIONの講座体系と学習の進め方を理解する

## 第1章 総合型選抜入試とは何か

### 1.1 一般入試との根本的な違い

総合型選抜入試(旧AO入試)は、ペーパーテストの点数だけでは測れない「人物の総合力」を評価する入試です。一般入試が「試験当日の学力」という一つの尺度で合否を決めるのに対し、総合型選抜は「過去の行動から推測される未来のポテンシャル」を多角的に評価します。

この違いを正確に理解することが、対策の第一歩です。

	一般入試	総合型選抜入試
評価対象	試験当日の学力(点数)	過去の行動+思考力+将来性
測定する力	知識の量と正確性	思考のプロセスと論理的表現力
合否の決め手	偏差値・得点率	「この学生を合格させるべき根拠」の有無
準備期間	受験直前の集中学習が有効	長期的な自己分析・スキル構築が不可欠
対策の核心	過去問演習・暗記	論理的自己分析+文章力+面接力

### 1.2 なぜ総合型選抜入試が増えているのか

近年、多くの大学が総合型選抜の定員枠を拡大しています。その背景には、大学側の明確な経営戦略があります。

第一に、大学の定員厳格化により一般入試の倍率が上昇し、受験生の「早期に合格を確保したい」というニーズが高まっています。第二に、少子化の中で大学は「確実に入学してくれる学生」を年内に確保したいという経営的要請を持っています。第三に、ペーパーテストだけでは測れない「思考力・表現力・主体性」を重視する教育改革の流れがあります。

つまり、総合型選抜入試の拡大は一時的なトレンドではなく、大学入試の構造的な変化です。この変化を正しく理解し、戦略的に準備することが重要です。

## 第2章 大学が本当に求めているもの – 5つの本音

大学のパンフレットやオープンキャンパスでは「多様な人材を求めています」「主体的な学びを重視します」といった理想論が語られます。しかし、実際の採点基準はもっと経営的です。大学は「経営組織」であり、受験生を「投資先」として見えています。

この事実を受け止め、大学の本音に合わせた準備をすることが、戦略的な受験対策の出発点です。

No.	大学の本音	具体的に見ていること
①	学力・才能の担保	入学後に授業についていけるか。退学・留年リスクがないか。最低限の学力、または他を圧倒する特異な才能を「事実」として提示できるか。
②	ブランド価値への貢献	将来、大学の看板を背負えるか。問題を起こさず、大学の格を上げるような「誠実なリーダーシップ」を持っているか。
③	ポテンシャル(潜在能力・将来性)の推論	過去の行動から「成長の再現性」を推測できるか。大学のリソースを活かし、研究や活動で成果を出せそうか。
④	早期確保(専願の確実性)	合格を出したら確実に入学してくれるか。他校へ浮気しない「専願の論理的根拠」を持っているか。
⑤	学校運営の円滑化	自律的に動き、周囲に良い影響を与える学生か。ゼミや研究室を活性化させる「組織適合性」があるか。

まとめると、大学の本音はこうです：

- ①一定の学力が担保され、又は特異な才能があり
  - ②学校のブランディングに資する、又はレピュテーション(名声・名誉)を下げない
  - ③ポテンシャルがあると推測できる生徒を
  - ④早期に確保して
  - ⑤学校運営を円滑にする
- これが総合型選抜入試の実情です。

この5つの本音を理解した上で、「自分を合格させるべき根拠」を論理的に組み立てることが、本講座全体を貫く基本戦略です。